

## ボランティア募集团体への取り組み

### 1. 団体登録の更新

ボランティアセンターでは、ボランティアを募集する団体に「登録」をお願いしている<sup>1</sup>が、2006年度末でその初期登録期間である2年が経過した199団体に、登録の更新をお願いした。具体的には、書面で「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を再度確認のうえ、団体の名称や所在地、担当者、ボランティア募集内容等の情報を更新していただいた。またアンケートを同封して、ボランティア受け入れに関する意見やボランティアセンターへの要望などについて尋ねた。今回の更新では、125団体(63%)に再登録の手続きをしていただいた。登録の更新は、団体に面倒をおかけする作業ではあるが、更新の資料として提供いただいた新しいボランティア募集チラシをセンターに配架することができたり、ボランティア募集の担当者が変わった団体に本学ボランティアセンターの存在や登録状況を知っていたりなど、更新作業によって得るものも大きい。なお、2007年9月より「団体登録票」や団体のパンフレットなどの資料もセンターに配架し、常時学生たちが見られるようにしている。

### 2. 登録団体へのアンケートの実施とその結果

登録団体から寄せられているボランティア募集にどのくらいの学生が応募しているのか実態を把握できていないという問題が、センター発足以来あった。今回の登録更新に際してアンケートを作成し、登録団体に回答を依頼した。協力をお願いした199団体のうち、45団体に回答いただいた(回収率は26%)。アンケートの集計結果は、【資料1】として本稿の最後にまとめて掲載した。

はじめに「本学生が過去1年(2006年1月～12月)に団体が募集するボランティア活動に参加したか」について質問をした。その結果「参加した」という回答が56%、「参加していない」という回答が40%であった。回収数が限られているので断言はできないが、登録している団体の半分以上に本学生がボランティアとして参加していることが分かった。また、続いて「本学生の参加人数」を尋ねたところ、年間で0人～最大30人であり、団体によって大きな差があった。2006年1年間に20名以上参加させていただいている団体を挙げると「国際ワークキャンプNICE」(30名)、「戸塚区社会福祉協議会」(20名)、「神奈川区ホリデースクール」(20名)、「中区障がい者生活支援スペースポート」(20名)であり、また、アンケートに回答して下さった団体には平均すると「3.4人」の学生たちが参加していることが分かった。「学生がボランティアとして参加したことで、団体にプラスの影響があったか」の質問に対しては、

---

<sup>1</sup> はじめてボランティア募集を希望する団体には、コーディネーターが「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」にしたがって聞き取りをおこなった後に、団体の資料や募集チラシなどとあわせて「団体登録票」を提出していただいている。センターで承認を経て「団体登録」となる。

「とてもあった」、「あった」をあわせて 39%であった。「とくにない」と「ない」をあわせて 5%であった。「とても影響があった」と回答いただいた団体からは「プログラムのスタッフとして年間で継続して活動を支えてくれ、とても頼りになった」、「バスケットなどスポーツプログラムをアスリートと一緒に、サポートしてくれた」、「ボランティアの中心的存在として活動してくれた」などの回答があった。「影響がない」とした団体からは、「一度きりだったため、とくにない」というコメントがあった。

「団体が直接学生向けにボランティア活動の紹介をする機会に参加したいか」という質問には、91%の団体に「参加したい」と回答いただいた。アンケートの後半では「ボランティアの紹介方法について、アドバイスやリクエスト」を尋ねた。都内の児童館からは「ボランティアというと、海外ボランティア、災害時のボランティアと、大きなものや目を引くものに興味・関心がいてしまいますが、身近に1時間でも助けてほしい人や団体があることを知ってほしい」という意見が寄せられた。自然体験の機会を提供している団体からは「学生のボランティアニーズ（内容や指向性など）や傾向の情報がほしい」という意見をはじめ、センターや学生への意見が寄せられた。「今後ボランティアセンターに期待すること」として、学生と団体をつなぐ機能を期待する意見が多かったが、「これまでセンターから一人も学生を紹介されたことがなく、まずは紹介してほしい」という団体からの率直な意見も出された。

今回のアンケートで、学生たちの活動の一端を知ることができた。アンケートに回答してくださった団体の半数以上で本学生がボランティアとして活動していること、継続的に活動に参加したり、ボランティアの中心となったりなど、力強く活躍してくれている学生がいることも分かった。一方、一度きりのボランティアでは、団体へプラスの影響があたえられない場合が多いことが分かった。団体から多かった要望として「学生に直接、活動の紹介をする説明会の実施」があり、2007年度には「登録団体によるボランティア説明会」を開催することとなった。

### 3. 登録団体とのつながりをつくる取り組み

#### <ふれあい会>

これまでは、学内で行われる団体登録説明会にご出席いただいてから団体登録手続きを行っていたが、各団体の負担を軽減するために今年度から説明会への参加を必須とはしないことになった。そこで、自由参加の「ふれあい会」という顔合わせの会を毎月1回白金・横浜各校舎で開催することにした。「ふれあい会」ではボランティアセンターの紹介をはじめ、学生の動向やセンターの方針を説明し、また募集団体からはボランティアの内容を説明していただいている。この会は参加団体同士が大学生のボランティア募集に関して経験やアイデアを交換しあう有意義な機会ともなっているが、最近では参加数が減少傾向にある。ボランティアを募集する団体は、学生と直接話をするのを希望しているので、今後はふれあい会の趣旨を生かしながら、学生向け説明会と融合させることも考えられる。

#### <登録団体によるボランティア募集説明会>

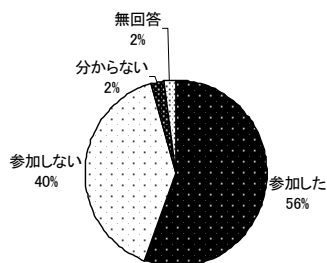
アンケートの結果、団体から要望の高かった「ボランティア募集团体がボランティア活動の紹介をする」機会を作るべく、白金で6回（計5団体が参加）、横浜で3回（計14団体が参加）「登録団体によるボランティア募集説明会」を開催した。昨年度まったく参加者がいなかったボランティアに今年度は8名の応募があるなど、ボランティアを募集する団体が学生に直接説明を行う場作りが大切であることが確認された。このように、団体と学生を直接「つなぐ」説明会を今後とも継続・発展させていきたい。

<ボランティア情報システム（VIS）>

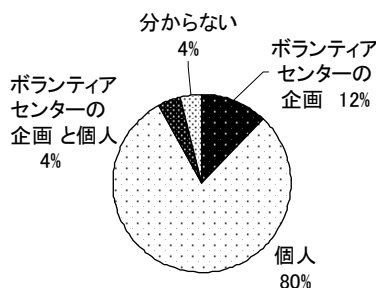
明治学院大学ボランティア情報システム（VIS）は、インターネット上で募集情報を発信するシステムで、現在は144団体が登録し情報発信をしている。学生が大学に来なくなる春休みや夏休みのボランティア情報探しには学生の活用度が高く、一つの募集に対して10名以上が参加した例もある。継続した活動であっても、1日や数日のみの参加が可能な場合には、活動日を区切って募集することにより、参加率が上がったという話も登録団体から伺った。登録団体の方がたにシステムを一層活用していただき、学生のボランティア参加率が上がることを期待している。

**資料** 登録団体へのアンケート結果

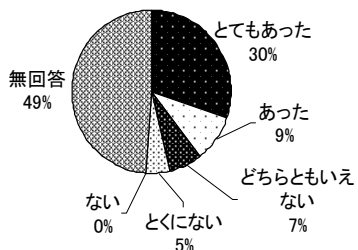
【図1】本学生は過去1年（06年1月～12月）に貴団体へのボランティア活動に参加しましたか



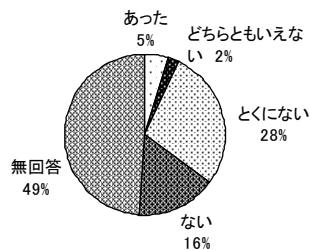
【図2】本学生がボランティア活動に参加した経緯



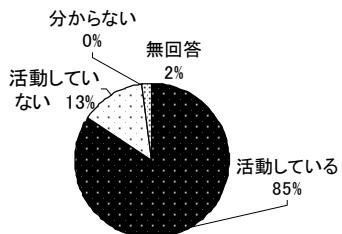
【図3】本学生がボランティアをおこなうことでプラスの影響はありましたか



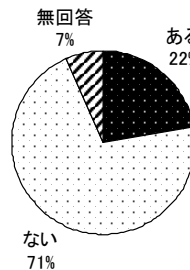
【図4】ボランティアの受け入れをしていて困ったこと



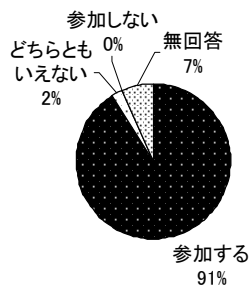
【図5】貴団体で大学生(本学生以外)がボランティア活動をおこなっていますか



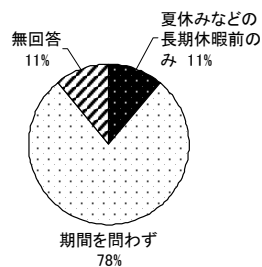
【図6】本学生に向けて、本センターよりあらかじめ伝えてほしい事項等がありますか



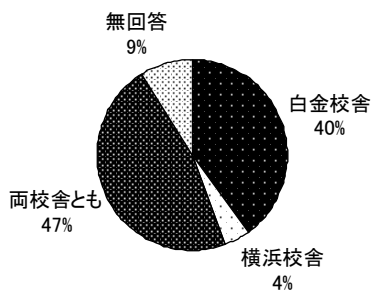
【図7】ボランティア募集团体が学生にボランティア活動の紹介をする会に参加を希望しますか



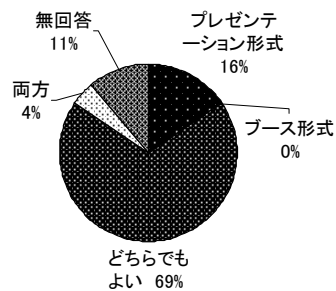
【図8】(「参加する」と回答された団体へ)どのような時期を希望されますか



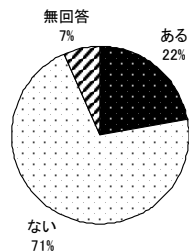
【図9】説明を希望するキャンパス



【図10】説明の形式はどちらがいいですか



【図11】明治学院大学ボランティアセンターに期待することはありますか



(糸井)